

# 先祖の地、朝鮮半島へ

## 高麗郡のルーツを訪ねて

歴史による地域おこしは、よく耳にするけれど、古代にさかのぼる地域の始まりを記した文献があり、渡来人たちが拓いた土地で、しかもそのリーダーの家系が今でも累々と続いているのは、かなり珍しい例だろう。当初、日高市と飯能市に置かれた高麗郡は、戦乱で故郷を失った高句麗の人たちが新天地づくりに挑んだ地だ。それから1300年、この地域で歴史を軸に新たな風を起した人たちがいる。彼らはこのほど、「先祖たちは反対向きに海を渡り、韓国に残る高句麗遺跡を訪問した。ルーツを感じる」とほめてきたのだろうか。

参加したのは「高麗郡建郡 高句麗は、紀元前から7世紀後半まで朝鮮半島から中国のメンバーら。高麗神社(日高市)宮司の高麗文康氏(47)も加わった。高麗氏は建郡時郡家古墳が高句麗風のヒラミの郡司・高麗王若光の直系80代目とされる。初代と同じく、地域に情熱を注ぐ人物だ。

省)も高句麗のものだ。韓国ドラマ「太王四神記」では、俳優ベ・ヨンジュンが広開土王を演じて話題になった。

高句麗は668年、唐と新羅の連合軍に滅ぼされた。当時の日本の政権は716年、東国にいた高句麗人1799人を集めて高麗郡を置く。高麗郡は1898年、入間郡と合併するまで存続した。さて訪問団は、ソウルの東にあるアチャ山に向かった。



復元された高句麗古墳の説明を聞く一行  
—京畿道城南市パンギョ博物館

漢江に近い岩山で、高句麗の堡壘が20以上も残っている。堡壘は兵士が駐屯した前哨基地だ。「漢江流域は国家の存亡に関わる重要な場所でした」。ふもとの高句麗遺跡展示館で文化観光ガイドの鄭勇先さんが説明した。アチャ山は百濟、高句麗、新羅の3國が激しく奪い合った。アチャ山には日本人観光客もよく訪れる。太王四神記のロケセットが公開されているからだ。山腹には、ヨソ様に似ているとも噂される人面岩がある。「ヨソまで尋ねる日本の女性も結構いますよ」と鄭さんは笑顔で話した。

漢江を南へ渡ると、大胆なデザインのホテルが目立つ。先端産業の集積地パンギョ・テクノバレーだ。落ち着いた外観のパンギョ博物館には、開発で見つけた古墳や出土品が展示してある。案内してくれた曹賢珠さんは「規模は小さいですが、重要な展示もあります」と話す。目玉は二つの石室が並ぶ高句麗の古墳だ。夫婦の墓と考えられている。高級住宅街で見つかり、運んで組み直したそうだ。曹さんは高句麗に関心があり、中国まで遺跡を見に行ったり、高麗氏が高句麗王族の末裔かもしれないと聞く目玉を丸くした。「そんな人が日本にいるなんて。一緒に写真を撮ってください。SNSにアップしますから」。

(高麗郡建郡1300年記念事業委員会・福島聡)

高麗郡建郡1300年記念事業委員会。2018年に建郡1300年を迎えるのを機に3年前から活動。日高、飯能、入間、狭山、川越、坂戸、鶴ヶ島、毛呂山、越生の7市2町の首長が顧問で、商工団体、企業、市民らが参加している。「当地体操「高麗美舞体操」、歴史小説「高麗王若光物語」の企画や日高市と協力したパンフレット発行や歴史シンポの開催をしてきた。18年に向け、1799人の古代衣装パレードなどの記念事業を計画している。問い合わせは同事務局(8042・978・7432)へ。

# 高麗郡の「天下大將軍」

## ルーツを訪ねて

旅のコーディネーターでもある元中学教師の小俣洋一郎さん(65)は、韓国の特設学校で5年ほど日本文化などを教えた。小俣さんは「韓国で高句麗への関心が高まったのは最近のことです」といふ。

三国時代の百済、新羅の都だった扶余と慶州は有名な観光地だ。一方、高句麗は現在の中国に都を置き、拡大とともに平壤に移った。英雄として知られる広開土王の碑は中国に、彩色古墳など史跡の多くは軍事境界線の向こうだ。韓国で唯一目撃できる高句麗の石碑がある。ソウルから南東に約1000キロの忠州市。1978年に発見された中原高句麗碑は、5世紀に半島南部まで勢力を伸ばした物証だ。いつとき家の柱石にされた。

# 古代の英雄で観光振興

さらに東へ50キロ。風光明媚な地、丹陽に、高句麗の英雄をテーマにした「オンダル観光地」がある。オンダルは激戦の地だ。歴史の中で、どし身分ながら王女と結婚し、將軍までのし上がった。ここには、オンダルが戦死した山城、休んだ洞窟、展示館とともに、歴史ドラマの大規模な撮影セットがある。軒を連ねる巨大な城や宮殿では「太王」といふ動きはないらしい。日本

した」。解説してくれた朴仙禮さんは熱く語り続けた。「国内で広開土王碑に並ぶ高句麗の碑が見つかったんです。言葉の陰には、中国の研究者による高句麗を中国古代史の一部とみなす主張がある。中原高句麗碑は、韓国の人たちに高句麗を身近に感じさせるきっかけとなった。漢江の支流が山を縫って

四神記「千秋太后」などの人気ドラマが撮影された。近くには土産物屋が並び、おもちゃの刀や弓を売る。山城へ登ってみた。400

の観光地でもよくある話だ。帰りに振り向くと、オンダルと王女の、ちよつと垢抜けのないゆるキャラ風の人形が見送っていた。

(高麗郡建郡1300年記念事業委員会・権島聡)

朝鮮半島の三国時代、紀元前1世紀ごろから7世紀にかけて高句麗、百済、新羅の3国が覇権を争った。高句麗は

北を中国に、南を百済、新羅と接していたため、南北からの攻撃にさらされていた。680年に百済が滅亡。688年には唐と新羅の連合軍によって、高句麗が滅んだ。高麗郡の初代郡司・高麗王若光は、高句麗の救援を求めて日本へ派遣されたとも考えられている。



絶壁のようなオンダル山城の城壁—忠清北道丹陽郡

# 高麗郡の

## ルーツを訪ねて

ソウルの北、旧時の楊州市

戸倉。訪れた目的は、戸倉の裏山だ。楊州は、臨津江(イムジン川)から漢江へ抜ける古代の主要路が通る。戸倉裏の仏国山は、盆地の中央にあり、にらみをきかすには最適だ。九つの堡壘が残る。

登山口には、親切な案内板と靴の泥を落とすエアスタンプまであった。実はこの山、

# 人をうつなぎ未来を拓く

地元で人気のハイキングコースだ。道は緩やかで、日高市の日和田山を連想させる。未発掘の堡壘はすぐに分かった。両手で持てるぐらいの石がごろごろしている。城壁は崩れているが、これだけ石があれば復元できるだろう。楊州市でも本格調査に入るという。日和田山にも遺跡があるんじゃないかと、汗を拭きながら

に近づくとつれ、軍用の施設が目についた。峠道や橋の両側に無骨なコンクリートの構造物が屹立する。ガイドによると、有事には道路を埋め、橋を落とし、敵の進路を遮断する設備だという。付近は今でも軍事的要衝なのだ。

臨津江北岸にある堂浦城壘は、芝生に覆われた小山だった。川と絶壁を利用した三

がら盛り上がった。

さらに北へ、臨津江を目指す。8世紀半ばから7世紀後半まで、臨津江は高句麗の防衛線だった。川沿いにたぐさの堡壘が築かれた。臨津江

角形の前哨基地だ。川が蛇行して渡りやすい場所を監視する。さらに下流のホロコル堡壘を訪ねた。畑の向こうに古墳のよつな盛り土が現れた。

ここも臨津江に臨む絶壁の上にある。堂浦城よりの規模が大きく、高い身分の指揮官が駐在したという。高さ10メートルの城壁が復元されている。眼下を臨津江がゆるやかに流れ

イテク都市の一角にあるパンギョ博物館では、見送りに出る職員が、また来てほしいと握手を交わし、夕陽の中、すつと手を振ってくれた。

歴史はいざかしの種にもなるだろうが、本来は人と人をつないで未来を拓く、よすがすべきものではないか。

私たちは、高麗郡の歴史も、そんな風に役立てたいと考

る。ここから、現代の非武装地帯までもきかない。

短い旅で出会った韓国人たちは、地元でも知られていないような遺跡まで訪ね歩く物好きな日本人たちを、驚きとともに歓迎してくれた。中原高句麗碑展示館で解説してくれた女性は「こんなに大勢の日本人に話したのは初めてです」と顔を紅潮させた。ハ

郡だったが、郡内には三つの

高麗郡建郡1300年記念事業委員会・福島総 古代高麗郡の遺跡 「統一紀」によると716年に駿河、甲斐、相模、上総、下総、常陸、下野の7国から高麗人が

寺があった。1郡に3寺院があった例は武蔵国では他にない。残念ながら郡役所らしき遺構は見えていないが、大きな話題になるだろう。武蔵高萩駅の北側で大規模な



古代に築かれた石組みは1500年も風雨にさらされ、またこうして残る。京畿道楊州市